

五郎沼通信



第21号 平成30年8月発行

この通信は、五郎沼の桜や周辺環境を守りながら、五郎沼の活用方法や今後のあり方を地域の皆さんと考えるために発行します。
(発行部数:200部)

発行者：「五郎沼の桜を守る会」
事務局 瀬川峰雄
紫波町南日詰字小路口70-1
電話：019-672-2656
FAX：019-601-2686
携帯：090-2270-6771
m-mail：segawa@mineo.jp
Pcmail：info@shiwakankyo.com

五郎沼の古代ハス池が異変？

ジャンボタニシが増殖か？

西日本豪雨で大変な災害が起きてしまいました。また、台風12号も数年前に岩泉町を襲った台風の様に、従来進路でない今までの常識では考えられなくなってきた感があります。やはり温暖化の影響か、気象が大変極端なような気がします。今後このように天候不順が続くかどうか、どうしても思っています。

そんな昨今でも、五郎沼古代ハスの開花は7月4日で、今年もなんと開花していました。しかし、温暖化は古代ハスにも影響している様子です。ハスの葉の生育状態が(小さく)良くない、花の数が少ないなどです。また、暑いためか池の干上がりが大変早く感じます。



近所の保育園児がみんなで見学しました



ジョンボタニシではなく従来タニシでした

食べないとの事なので、いつもハス池に出るアオコがきれいになっていたのは、従来からのタニシならだろうと思えます。その分はむしろ、良いのかと思います。



が急繁殖したためでした。今年もザリガニがいない訳ではありませんが、数は被害が多かった年ほど多くは見えませんが、原因は何だと思っただけで「ジャンボタニシがいますぞ！」と教えてくれた方がいました。俗称「ジャンボタニシ」とは、「スクミリンゴガイ」と言って以前は食用として輸入していた外来種が、野生化したもののようなです。田んぼの苗などを食べてしまうとの事ですので、ハスの芽ももしかしたらと思ってしまうました。しかし、ピンク色の目立つ卵を茎などに産み付けるはずが、ハス池にはまったく見えない事とまた、冬場が寒い岩手にはまだ現れていないと専門家の方より教えて頂きました。タニシであれば、藻の種類しか

五郎沼の笹やぶ

年に3回行っている五郎沼の堤体の草刈ですが、2回目は7月1日に行われました。この日は既に真夏になっていて午前中でも30度近くになる大変暑い日でした。

今年は以前より気になっていた東側堤体(4号線沿)の笹やぶを少しずつ刈ってもらいましたが、まだまだ、残っているしだいです。次回8月末ころですが、もう少し、頑張っけて刈って行きたいと思っています。



笹専用ダイヤモンド刃でも苦戦しています

古代ハス見学数

ひづめ館懇話会による五郎沼古代ハス池を訪れる、見学者に「古代蓮のいわれ」などをパンフをつくりボランティアガイドをしていました。

7/14~16の連休、21・22の土日の計5日間の集計は計約400人(1日あたり約80名)の方が、五郎沼古代ハスを見学に来ている訳で大変多く感じたと、会長の高橋敬明さんよりお話しをいただきました。

行財政難時代では、今後ますます住民と行政との連携が重要になってくると考えます。このような今回の地道な

大変貴重である具体的調査データは、今後は効率的に観光行政に活かされていくものと思われます。
※データの詳細は事務局、又は、ひづめ館懇話会まで……

	男	女
町内	62	68
町外	117	145
他県	5	1
計	184	214
合計	398	

※「五郎沼の桜を守る会」は今年も例年同様に会員以外の下記の地元企業からも賛助を頂き運営されております。(順不動です)
日通商事(株)盛岡LPガス事業所/株TKRマニユファクチャリングジャパン/北奥機械(株)/社会福祉法人紫波会/盛岡ガス燃料(株)/シンセラホール紫波/株岩手チキン工房/二葉運送(株)

五郎沼の草花



◀多年草（花期5-6月）……名前の由来は野蒜（ノビル）と言いい、野に生える蒜（ニンニク）、ネギなどの総称の意味。

学名：ノビル



学名：ムラサキツメクサ
(別名) 赤ツメクサ

▲多年草（花期5-8月）……名前の由来は、白詰草に対して紫の花を咲かせることから。ヨーロッパ原産の帰化植物。明治初期、牧草として渡来した。現在は全国にハチの受粉で野生化している。



学名：イロハモミジ
(紅葉の代名詞)

▲多年草（花期4-5月）……名前の由来は葉が掌状に5-9裂片になっていることから（イロハニホハト）と数えた事の意味。果実はブームラン形の翼果（ヨクカ・果皮の一部が平らな翼状に発達した果実）になり風に運ばれている場所に根を宿る。



学名：ノアザミ

◀多年草（花期5-8）……名前の由来は野に咲く薊（アザミ）の意味。春に咲くアザミは本種だけで、頭花は紅紫色ですが、まれに白花もある。同種のノハラアザミは粘液を出さない事で区別ができる。ノハラアザミの花期は8-10月。



学名：ヒメジョオン

◀二年草（花期6-10月）……名前の由来はこの花にかぎりはっきりしていない。姫女苑（ヒメジョオン）の葉は茎を抱かない事で春女苑（花期5-7月）と見分けが付く。北アメリカ産。



学名：スイバ
(別名) スカンボ

◀多年草（花期5-8月）……名前の由来は茎や葉に酸味があることから、若葉は食用になる。

五郎沼が築堤されたところ・比爪藤原氏の時代（9）

四面廂（しめんひさし）建物

赤石小学校の敷地内の発掘調査から多くの掘立柱建物

（ほったてはしらたてももの、ほりたてはしらたてももの）跡が検出されています。この時代の建物はほとんど掘つ立て柱建物であり、掘立柱建物は、地面に穴を掘りくぼめて礎石を用いず、そのまま柱（掘立柱）を立て地面を底床とした建物です。当然基礎部分の柱が腐りますから、十数年ごとに建て替えなければなりません。古い柱穴を埋め直し、近くに新たに作り直します。その際、古い柱穴に貴重な物を入れて埋め戻したりします。

榑爪館では、五鈷杵（ごこしよ・魔を払い身を守る密教を代表する法具）や磬（けい・読経の際に打ち鳴らす仏具）などが柱穴から出土しています。礎石建物④と違い、掘つ立て柱建物は柱穴が残ることによって、建物の間取りがわかります。また、長い間住み暮らしした場所には多くの柱穴が検出され、何度も建て替えられた痕跡や建物が存在した順番などがわかります。

榑爪館遺跡からは図のように多くの建物跡が見つかっています。また、建物の周囲（四面）を廂（ひさし）（庇）で囲んだ建物を四面廂付（しめん

ひさしつき建物と呼び、格の高い建物の特徴です。平泉では50棟以上の建物跡が確認され、そのほとんどが床面積

100㎡以上、柱間（はしらま）3.3m前後、四面廂付の大型・高格の掘立柱建物群です。

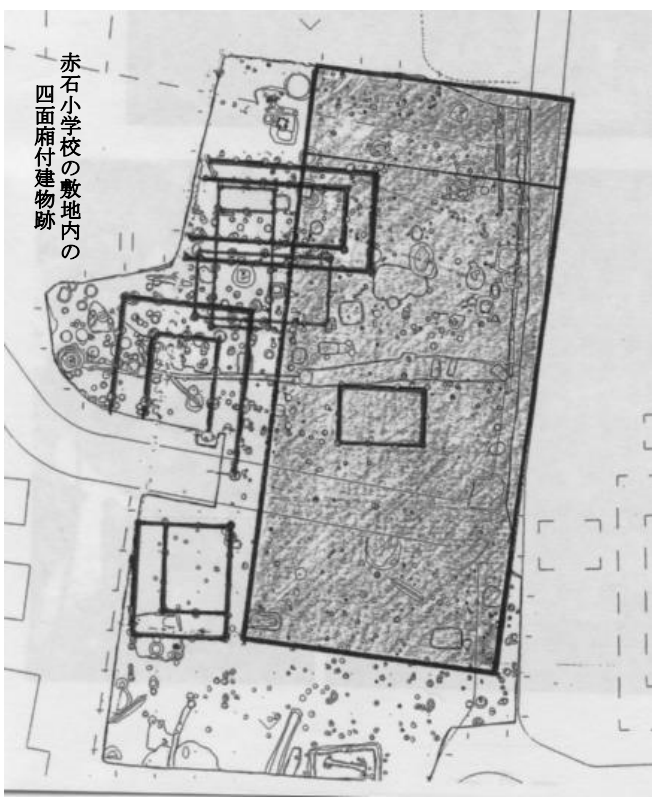
赤石小学校の敷地内からも数棟の四面廂建物が検出されています。写真は柳之御所遺跡（平泉館）の復元図です。

このような建物が赤石小学校敷地内に数棟ありました。図は発掘調査が行われた範囲の一部で、赤石小学校のプール付近の四面廂付建物跡です。

④礎石建物は石など（礎石）の上に柱を建てる物です。現在残って

いる建物はほとんど礎石建物です。しかし、礎石が移動されたり無くなったりするとほとんど建物の痕跡が残りません。（石幡談）

（石幡談）



柳之御所遺跡の復元図